

2017年度 事業報告書

1) 事業の成果

《パレット》

1. パレットの理念に基づいた事業の充実と安定した運営を図ります。
 - ・ 青葉区地域子育て支援拠点ラフルサテライトを市ヶ尾町に開設し、子育て支援の施設が1つ増えました。
 - ・ 「親と子のつどいのひろば事業」「乳幼児一時預かり事業」(特に小規模併設型)は、単体では安定した事業になり難い状況が続いていますが、子育て家庭のためにパレット全体でこれらの事業を支援し運営しています。
 - ・ 青葉区の子育て家庭に何ができるか、どこと連携していくか、メンバーで議論して活動につなげています。
 - ・ 国立成育医療研究センターの医療型短期入所施設「もみじの家」を紹介され、この活動を応援するために各事業所に募金箱を設置しました。パレットの理念に通じる取り組みとして積極的に広報を担っていきます。
2. 子育て家庭のニーズ把握に努め、課題の解決に向けて取り組んでいきます。又、子育て家庭の環境と社会の情勢の変化を常に察知し、今後必要な子育て支援とは何かを考えていきます。
 - ・ 「親と子のつどいの広場ぴよぴよ」が移転せざるを得ない状況になり、存続に向けて力を尽くしました。区内で社会資源の少ない荏田に移転したことで、地域から「よかった」との声もあり連携もうまれつつあります。
 - ・ ラフルサテライトが区役所の近くに開設されました。青葉区全体で考えたときに他の場所はなかったのかという思いは残りますが、この地でできることを考えて進めていきます。
 - ・ 出産後に復職する人が増え、その時期も早まってきています。「地域で過ごす短い時間に必要な子育て支援とは何か」を考える年になりました。
 - ・ 子育てタクシーは、妊娠中や子育て中の家族には必要な資源であると考え、引き続き広報活動を担うとともに、ドライバーの研修にも協力してきました。
3. メンバー全員が、子育てを支援する力が高められるよう、計画的に内外部の研修に参加できる体制を整えます。また、学んだことを共有してスキルアップを図ります。
 - ・ パレット主催で「障がいのある子と保護者の理解とその支援～乳幼児期も含めて」を実施しました。全てのメンバーに必要な内容で、事業に役立てることができました。
 - ・ 横浜市青少年局主催「保育士等キャリアアップ研修(研修種別：障害児保育)」に参加することができたことは有意義でした。

- ・メンバーがそれぞれ、様々な研修会に出席しましたが、他のメンバーと共有する機会は十分にありませんでした。パレットとして、もっと計画性を持って研修計画を立て、他のメンバーへのフィードバックを図る必要を感じました。
 - ・事業に直ぐ生かせる研修ばかりでなく、新たな考え方や発想の広がりにつながる研修を探して受講することも必要だと思われまます。
- 4. 子育て家庭の視点からの防災・減災について事業所を通して伝えていきます。**
- ・例年同様3月にラフルで「子育て家庭の防災講座」を開催しました。講座をきっかけに、それぞれの家庭での防災用品を見直す時期となっている様子も見受けられました。
 - ・9月1日の「かながわシェイクアウト(いつせい防災行動訓練)」に参加することで、子育て中の家族に防災について考える機会を提供しました。
 - ・親子で過ごすひろばでは定期的に避難訓練を実施して、子育て家庭の防災・減災の意識づけにつなげています。
- 5. 多様な親子に寄り添って受け止め、必要な支援ができるよう事業所や関係機関との連携を密にして、妊婦からの子育てを応援します。**
- ・区から依頼があった様々な困難ケースに対し、各事業所が連携して取り組みました。緊急時には一事業所で他事業所の登録にも対応するなど利用者の負担を軽減して、すぐに利用できるようにしました。
 - ・ケースカンファレンスにも法人、子育てサポートシステム、乳幼児預かり事業所から共に出席するケースが何件かありました。養育支援家庭に対し、トータルで事業をしているパレットだからできる援助ができました。また、カンファレンスは他事業所や他機関の方々の事業内容を知る機会にもなっています。
 - ・デイレスパイトの補助金は予定額に達し年度途中で終了となりましたが、引き続き依頼があったケースには、他事業所とも連携して丁寧に対応しています。
- 6. 様々な世代の方にパレットの活動を伝え、子育て支援の輪を拡げていきます。**
- ・例年同様青葉区民まつりに参加し、パレットの活動とパレットが応援する子育てタクシーの広報を行いました。また、輪投げ、似顔絵、キラキラグッズの販売を行うブースに多くの親子が集まりました。
 - ・パレット通信とホームページで、パレットの活動の様子を発信しています。
 - ・育児雑誌『くーよん』の連載企画「子どもの居場所 つくるひと」の取材を受け、10月号に『NPO法人ワーカーズ・コレクティブ パレットのふたつの居場所』青葉区地域子育て支援拠点ラフル・子どもミニデイサービスまーぶる」が掲載されました。
 - ・たまプラーザ“さんかくBASE”で2回開催されたファミリーリソースプロジェクトで「子育て支援活動紹介・相談コーナー」のブースに出展し、子育て中の方、子育てに興味のある方にパレットの活動を伝えました。

- ・ いるかくらぶが市ケ尾第三公園の愛護会事務局として活動することで、地域の方にパレットの活動の輪を広めることができました。

2) 事業内容

①特定非営利活動にかかる事業

《まーぶる》

1. 子どもたち一人ひとりを大切にし、個々の成長を応援していきます。

- ・ 一時預かり、定期預かりともに子どもが楽しく過ごすことができるように一人ひとりに応じた関わりを行いました。一時預かりでは昨年度から継続して登室する子どもも多く、成長に応じて活動のチームを分けて行動しました。
- ・ 公園や庭での外遊びを中心に、四季折々の自然に触れながら沢山体を動かすことで成長の土台となる丈夫な体づくりを目指しました。始めはバギーで往復していた子どもも片道、往復歩けるようになりました。草花や木の実を見つけ、季節の移り変わりを感じる力がつきました。
- ・ 障がいのある子どもや配慮が必要な子どもを預かる機会も多くありました。子どもの様子の聞き取りを、特に丁寧に行い、子どもが安心して過ごせるよう大人の配置を考えて、寄り添うことができました。
- ・ 子どもたちが安心・安全に遊べるように保育室内の家具、庭の点検、外出時の持ち物の整備を適宜行いました。また、保育室壁面には年間を通して季節に応じた「子どもたちの作品」を飾りました。
- ・ 運動会やお楽しみ会などの飾りを子どもたちと一緒に作りました。
- ・ お芋ほりや運動会、お花見遠足等、子どもたちが楽しみに参加できる室外活動を積極的に行いました。
- ・ 一人ひとりの育ちのペースに合わせ、自分でできることは自分で、できないところは一緒にやってみたりしながらそれぞれの成長を見守りました。また、子どもたちの状態を保育者全員が細かく共有することでその時々が発達課題を意識した対応ができるよう心掛けました。
- ・ 初めて来る子どもが保育室に慣れない間はその不安な気持ちに丁寧に寄り添い、あたたかい声かけやスキンシップ、遊びへの誘いを通じて子どもが安心感を持ち、その日の中で少しでも楽しいと思える時間をもてるように努めました。

2. 保護者の気持ちに寄り添い、環境を整え、安心して預けられる保育室となるよう努めます。

- ・ 初めて一時預かりを利用される場合、子ども以上に保護者が不安なことも多いです。受け入れ時は、連絡帳を使いながら子どもの状態、生活リズムや癖、好きなものや苦

手なことを丁寧に聞き取るよう努め、保護者が安心して出かけられるよう笑顔で送り出しました。お迎え時はその日の子どもの様子、楽しく遊んでいた時間のことを伝えることで、預けてよかったと思ってもらえるように心がけました。

- ・ 玄関のホワイトボードに出かけた場所やお弁当とおやつの内容を記載し、帰りの際には、それも使ってコミュニケーションをとるようにしました。
 - ・ 障がいのある子どもや配慮の必要な子ども、緊急で預かる子どもの保護者から「預けて迷惑をかけていないか」という言葉が聞かれることがあったため、パレットの理念とともに「預けてホッとする時間を持ってほしい」ことを繰り返し伝えました。それにより一時預かりから定期預かりにつながったケースもありました。
 - ・ 子どもたちがより快適に過ごせるように、手洗い場の大規模な整備を行いました。
 - ・ 発達に応じた遊びができるよう年齢を考慮して玩具を揃え、大きい子も小さい子も遊びこめる環境づくりを行いました。
- 3. 他事業所との連携、情報の共有を通して、求められる子育て支援を行えるよう努力します。**
- ・ 気になる親子については、他事業所と連絡を取り合い、タイムリーに連携する機会もありました。育児に悩む保護者に対しては、関係先を紹介することで、親子に新しい行動のきっかけを作ることができました。
 - ・ それぞれの家庭の事情に応じて、送迎が楽になるように利用者の住居に近い事業所の紹介を行うなど、より需要に合った支援ができるよう連携を取りました。
- 4. 虐待防止についての知識を深め、デイレスパイト事業所としての役割を高めていきます。**
- ・ より丁寧な対応を行うように心がけました。今後も知識を深め、共通理解を進める必要があると思っています。
 - ・ 緊急枠を確保しておくことで、区や他事業所からの緊急性の高い預け入れにできる限り対応できるように体制を整えています。実際の緊急預かりでは、保護者と子ども双方により良い支援ができるよう、緊急預かりノートを用意して親子それぞれの様子を記録し、細かく情報共有して対応しました。
 - ・ デイレスパイト事業以外の緊急預かりも多数受け入れました。理由を問わず預かってもらえる場所があるという安心感が、子育ての不安解消につながったという話もありました。
- 5. 保育者間のチームワーク強化を目指します。共通理解、スキルアップのための研修を積極的に行います。**
- ・ その日預かる子どもの気をつける点などの確認を丁寧に行いました。
 - ・ 毎月のミーティングでは子どもの様子を個別に確認し、気になる子どもについて共通理解を深めました。

- ・ 子育て支援研修を受講することで、保育に必要な知識を身につけることができました。
 - ・ 保育者交流会で、グループワークゲームや話し合いを行い、ワークが一緒にならない保育者同志コミュニケーションを図ることで、保育をする上で重要な連携力の向上に繋がりました。
6. 中高生、大学生、ボランティアの受け入れを積極的におこない、実習を通して、子育て支援について考える場を提供します。
- ・ 今年度は、中学生（1年生4名・2年生4名）、大学生社会参加実習（5名 計175時間）の受け入れを行いました。
 - ・ 中学生、大学生ともにその日の自分の目標を意識して取り組んでもらい、実習後はその日の反省や気づいたことを話し合い、普段関わる機会の少ない子育て家庭について考える機会に繋がりました。
 - ・ ボランティアを受け入れ、乳児の見守りや消毒などをお願いしたことは、子どもたちにとっても普段の保育者とは違う大人との交流を楽しむ機会となっています。
7. 地域とのつながりを大切に考えます。
- ・ 昨年に続き自治会に加入し、夏祭りの手伝い等に参加し、町内会とつながっています。
 - ・ ご近所の方が定期的にボランティア活動に来所してくださいました。
 - ・ 今後は防災訓練など、自治会行事の参加を増やし、まーぶるの存在を伝える機会を作っていきたいです。
 - ・ 普段のお散歩や公園へ出かける際、よく通る道沿いのお店の方や手を振ってくださるご近所の方と子どもたちと共に笑顔で挨拶を交わすなど日頃の交流を大事にしています。

③子育て中の親子の交流事業

《びよびよ》

1. より多くの親子と地域の人に「いろいろな人が誰でもくつろげるつどいの広場」があることを通信やホームページで知らせます。
- ・ 子連れボランティアによりホームページを新しくしました。アクセス数が少なくなってきたこともあり、見やすくなるよう工夫してきました。
 - ・ 10月に荏田地域に引っ越しをしました。まだまだ荏田地域でびよびよのことを知っている方が多くはありません。地域の育児教室や子育て広場で通信を配布し、広場やBabyタイムの話をし、親子が安心してゆっくり過ごせる広場の紹介をすることで、徐々に広場利用や会員登録につながっています。

2. 自主研修や外部研修を通して人材育成を行い、「親子が主役」の広場にします。
 - ・ 外部研修には積極的に参加し、スタッフ自身のスキルアップを図るとともにスタッフ会議などで共有して広場に活かせるように努めました。
 - ・ スタッフが中心になって動いてしまうことが多く、利用者の力をもっと生かしていきたいと思います。原点に帰った「広場とは？」の研修を基に「親子が主役」という広場にしていきたいと思います。
3. 親子の声や力を活かし、どんな子育て家族でも利用しやすい広場づくりを目指します。
 - ・ 月1回のボランティア会が出た、ボランティアからの意見、要望などをスタッフ会議で共有して、取り組めるところは工夫しました。
 - ・ 広場でのボランティアの力は大きく、さりげなく新しい方に声をかけたり、よその子どもを見守っています。その姿が、荏田地域のお母さん同士の声掛けや子ども同士の見守りにつながり、新しい利用者も広場になじんでいます。
4. 地域で子育てを支援している方との交流や情報を行い、地域資源との連携づくりに努めます。
 - ・ 市ヶ尾地域では自治会に入り、回覧板などを通して、びよびよを知ってもらうようにしました。荏田地域でもこれから自治会に入り、地域との連携に努めていきます。
 - ・ 荏田での OPEN WEEK で赤ちゃん訪問員、主任児童員、近隣保育園園長、地域ケアプラザの方の訪問がありました。これからも地域とのつながりを太くしていきます。
 - ・ 荏田地域では、育児教室や子育て広場などへの広報のために地域担当の保健師と連絡をとり、また保健師の広場訪問もありました。
 - ・ 近隣の保育園にびよびよ通信やリーフレットを配架し、隔月のお話会にびよびよ利用者親子も参加させてもらっています。
5. パレットの他の事業所や行政等との連携を深め、子育て家族を応援します。
 - ・ 他の事業所の運動会やお餅つき大会などの行事に利用者親子が参加して地域の方との交流ができました。
 - ・ 子育てサポートシステムの入会説明会をびよびよで行い、「いつも利用している場所で気軽に話が聞けて良かった」との声があり、またそこからびよびよのボランティアにつながった方もいました。

《ぶーぶーしえすた》

1. 親子や育児中の祖父母にも気軽に足を運べる場、多世代で交流しやすい場として、遊びを提供し、親子関係を深めるお手伝いをしていきます。
 - ・ 週5日常設で広場を開催し、誰でも温かく迎え入れ、安心して過ごせるように家具やおもちゃ、本などの環境を整えました。

- ・ リピーター利用者や親子ボランティアが広場の雰囲気づくりに参画し、初めて来た親子ともおしゃべりを通してアドバイスしあう、助け合う場になりました。
 - ・ 広場を利用したことがない親子が広場に来るきっかけとなるイベントをいくつか開催しました。(Baby タイム、お話し会、手作りの日、英語で遊ぼう等)
 - ・ **Baby** タイムやお話し会、英語で遊ぼうのイベントは、子どもを膝にのせて親子と一緒に楽しむイベントとして好評でした。
 - ・ 手作りの日は短い時間ですが、子どもと離れて物づくりに集中し、利用者同士がおしゃべりしながら交流できるお楽しみのイベントとなりました。利用者同士で子どもを見守りあうこともできました。
 - ・ 広場玄関にイベントの紹介やのぼりを置き、子育て親子でない地域の方にも存在を知ってもらえました。
 - ・ 育休の方向けのおしゃべり会は、保育・教育コンシェルジュを迎えて、とても好評でした。
 - ・ 利用者の祖母に手仕事の講師をしていただきました。
- 2. ワーカー・スタッフ・ボランティア（親子ボランティア含む）のチームワークを大切にしていきます。**
- ・ 毎月行うスタッフ会議で情報を共有し、問題提示をし、よりよい広場になるよう話し合い、丁寧な対応に努める体制ができました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアの見守りのもと、地域の親子が集い、交流しながらお互い支え合う居場所となれるよう努めました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアは利用者が話しやすい雰囲気を作り、寄り添う姿勢を大切にし、日常の悩みや育児不安を話せるように努めました。
 - ・ 相談内容は個人情報を保護し、外部にもらさないことを厳守しました。
 - ・ 気になる親子や配慮が必要な場合は、スタッフ会議で情報共有を行い、場合によっては地域の保健師や子育てパートナーに相談しました。
- 3. 地域交流に継続して取り組み、地域活動に積極的に参加していきます。**
- ・ たまプラーザ地域ケアプラザ、美しが丘地域ケアプラザ、山内地区センターなどで出張ひろばを開催しました。
 - ・ たまプラーザ次世代タウンミーティング、ファミリーリソースプロジェクトに積極的に参加し地域の情報交換をすることができました。
 - ・ 地域育児教室（3月）や子育てひろば（4月、11月、2月）にゲストとして遊びに行き、親子の触れ合い遊びやお話し会をすることができました。
 - ・ 美しが丘地域ケアプラザのお祭りに参加しました。
 - ・ たまプラーザ商店街の夏祭りに参加することで、利用者の家族や小学生になった子どもと再会でき、良い交流の場となっています。

4. 他の親と子のつどいの広場事業所やパレットの各事業所とも連携して子育て支援の充実に努めます。
 - ・ 青葉区ネットワーク会議に参加することで、保育園、療育センター、センター園の方の話を聴くことができました。
 - ・ 青葉ひろば会議に出席し、それぞれの広場と連携し情報共有しました。
 - ・ まーぶるの登録説明会や子育てサポート説明会など各事業所の情報などを利用者へ伝えました。

5. 広場での情報提供、毎月の通信の発行、ブログで広場が身近にあり、気軽に来てもらえるよう情報を発信していきます。
 - ・ 区内の育児教室、栄養相談、歯科相談などの福祉保健センターからのお知らせを見やすい所に掲示しました。
 - ・ 保健師が開催している育児教室や地域の子育て支援者が行っているひろばで、広場の活動紹介やイベントの案内をすることで情報交換もできました。(山内、たまプラザ、あざみ野)
 - ・ 商店街の方々や自治会の方々からお祭りの情報や親子も楽しめるイベント情報を入手し、利用者に知らせることができました。
 - ・ 自治会の掲示板に毎月通信を掲示してもらえることになり、子育て世代以外の方々にも広場の事を知ってもらうことができました。
 - ・ ブログや通信（毎月発行）で広場の様子やイベント報告、今後の予定を広報しました。

④保育室での保育に関する事業

《なないろ（小規模保育事業）》

1. 子どもたちをよく観て、一人ひとりの発達課題を把握し、心身の成長をしっかりと支える保育をしていきます。
 - ・ 子どもの年齢、発達段階に応じた保育を行いながら、個々の良いところを引き出し、のびしていくよう努めました。子どもたちはのびのびと活動に取り組み、初めてのことや少し苦手なことにも保育者の手を借りながら挑戦する姿がたくさん見られました。
 - ・ 一人ひとりが安心して毎日の生活を送り、保育者との安定した関わりの中で基本的な生活習慣を身につけていくことができました。

2. 家庭との連携を深めながら信頼関係を築き、保育者と保護者がお互いによきパートナーとして共に子どもの成長を支えあっています。
 - ・ 連絡帳や送迎時の保護者との会話の中で子育ての悩みが多く聞かれました。保護者の

子育ての大変さを受け止め共感し語り合うことで、保護者との信頼関係を築くことができました。

子育てや、なないろへの要望などに関するアンケートを行い、希望者とは別室にて個人面談の機会を持ちました。保育室と家庭それぞれでの子どもの様子と対応を共有し、協力して子どもの育ちを支えています。

- ・ 日々の保育の中で見られる、元気いっぱい遊ぶ姿、笑顔やいろいろなよい表情を写真に撮って、掲示や保育参観で保護者にも見てもらうことができました。
3. 併設の一時預かり保育室とともに活動する機会を通して、子どもたちが交流の幅を広げ、新しい体験ができるように見守ります。
- ・ 一時預かり保育室とは、毎日のお散歩やわらべ歌遊び、リズム遊びを一緒にする機会を作り、日々の預かり人数や子どもの様子について事前に打ち合わせし、認識しておくことで安全に活動ができるように努めました。たくさんのお友だちと接することにより子どもたちはいろいろな経験をし、それが成長につながるように見守りました。
4. スタッフ間の連携を深め、保育内容の充実と保育技術の向上に努めます。
- ・ 毎日のふりかえりやミーティングでは、子どもたちが過ごす環境とその活動について十分な話し合いをしながら、チームワークよく保育にあたりました。
 - ・ 毎日の出来事やふりかえりで出た意見の中で、特にとりあげるべきところをミーティングで話し合い、共有できました。スタッフ相互のコミュニケーションがよくなることで保育中の役割分担がうまくでき、子どもたちの活動を支えることができています。
5. 地域の交流を大切にしていきます。連携園や関係機関とのよりよい関係作りにもつとめます。
- ・ 連携園のいずみ青葉台保育園とは、健康診断、歯科検診や園庭利用の他にも1歳児クラスとの交流保育も行い、子どもたちはもちろん職員も交流をはかりました。
 - ・ 近隣の認可保育園で開催された、わらべ歌の研修に参加し、保育に生かしました。
 - ・ 榎が丘小学校での防災拠点訓練に参加して、校長先生とお話する機会があり、なないろの避難訓練の折には、校庭を利用させていただけることになりました。
 - ・ 自治会と協力してマンション居住者の皆さんに青葉区報や回覧板などで地域の情報を伝える窓口となりました。

《なないろ（一時預かり）》

1. 0～2歳児、定員6名の少人数の保育室の良さを生かしたきめ細やかな対応を行います。それぞれの発達過程にあった丁寧な保育を行い、保護者の悩みに寄り添いながら、安心して預ける事のできる保育室となるよう努めます。
- ・ 子どもたち一人ひとりが、安全に楽しく過ごすことができるよう、受け入れ時には保

保護者からの聞き取りを十分に行い、子どもの姿をよく観察し、個々の成長やその日の体調に応じて細やかに対応しました。

- ・ 常時3名以上の保育者を確保することで、送迎時には、どの時間帯であっても余裕をもって保護者と相対することができました。発達、発育、育児に不安を抱えていた保護者の悩みを共有し、共に考え、子育てに寄り添えるよう努めました。その積み重ねにより、利用者からは「ここがあって良かった」という声を聞くことができます。
 - ・ 見学登録時には、6名の異年齢の子どもたちが過ごす様子、保育体制を見てもらいました。保護者の「預けたい」という意思を受け止め、一方で少なからず抱く「不安」を解消するよう丁寧な聞き取りと説明に努めました。
2. **事業を継続し、よりよいものにしていけるよう、実績をもとに計画をたて、安定した運営を目指します。**
- ・ どの時間帯でも出入り可能を原則に運営しました。利用者の希望の時間帯が空いていない場合には、利用可能な時間帯をお知らせして調整するなど、受け入れ機会の拡大に努めました。
 - ・ 市に対しては、日頃から厳しい財務実態を伝え、補助体制の改善を訴えました。次年度での体制変更は実現しませんでした。市による乳幼児一時預かり全事業所への聞き取り調査が実施されました。
3. **小規模保育室併設型一時預かり保育室として、職員相互の連携、合同での保育など併設型としての良さを生かしていきます。**
- ・ 小規模保育室の子どもたちとの公園遊びや室内遊びなどにより、子ども一人ひとりに、一時預かり保育室だけでは難しい年齢に応じた遊びの機会を提供するよう取り組みました。
 - ・ 一時預かり保育室、小規模保育室のスタッフみんなが、どちらの保育室の子どもたちも観守ることで、様々な視点で子どもたちの育ちを考えることができました。
 - ・ 小規模保育室と合同で保育をする事で、一時預かり保育室の子ども達も良い刺激を受け、できる喜びややりたいと思う気持ちの変化が見られ、成長する姿が見られました。
4. **デイレスパイト事業所として、預かりが必要とされる人の受け入れ先である責任を持ち、関係機関と連携し保護者の気持ちに寄り添いサポートできるよう努めます。**
- ・ 緊急性がある場合には、預かり枠（1名）に限らず受け入れを行い、保護者の育児不安の軽減に資することができました。
 - ・ 緊急時、法人内の複数サービスを利用する場合には、登録を一カ所で行えるようにするなど、他事業所と連携して利用者の負担を軽減し、スムーズな受け入れを実現するよう取り組みました。
 - ・ 緊急対応で預かった際には、他事業所や区の保健師に、子どもや保護者の様子をつぶさに伝えるなど、その後の見守りにも役立つよう協力しました。

5. パレットの理念をもとに、一時預かり保育室として目指すべきものを、職員間で話し合い、保育にあたります。ふりかえりやミーティングを通して相互にスキルアップを図ります。
 - ・ ラフールで開催された「一時保育、一時預かりについて考える会」において、なないろの現状と役割を報告し、子育て支援における一時預かりの重要性について参加者と共有しました。
 - ・ 毎月1回、スタッフ全員でのミーティングを行い、子ども達一人ひとりについて状況を確認・共有し、より良い保育の実現に努めました。

⑤その他この法人の目的を達成するために必要な事業

《ラフール》

青葉区の子育て支援センターとして、安心して子どもを生み育てることができる地域づくりを目指します。

1. 拠点事業の周知に努め、広く区民にラフールを知らせていきます。
 - ・ 区民に向けた周知は、「地域に出ていく」、「ラフールに来てもらう」という2つの方法で関心の高いテーマを取り上げて集客を試み、来場者に拠点事業を伝える機会を作ることができました。
 - ・ 「地域に出ていく」出張企画は、参加者だけでなく会場となる区内の施設関係者に対する拠点事業の周知にもなりました。又、6周年で出演依頼した地域のゲストにも拠点事業を周知することができました。
 - ・ 毎月の区報への掲載、ラフールニュースの配布、ブログの発信で、ラフールの行う事業を広く区民に知らせることができました。
 - ・ 健康フェスティバルに参加し、訪れる多くの区民に拠点の事業を伝えました。
 - ・ OPEN DAYの実施を区報で広報するだけではほとんど参加はなく、今後工夫をしていく必要があります。
2. 妊婦さんから0～2か月児を含む全ての子育て家庭を応援していることを発信し、相談窓口になります。
 - ・ 妊婦向けの企画を充実させてアプローチしたことにより、妊婦や出産間もない人からの電話相談につながっています。
 - ・ 母子健康手帳交付時や赤ちゃん訪問員訪問時でのラフールの周知が、出産前や早い時期からの拠点利用や子育てサポートシステム入会説明会の参加につながりました。
3. 青葉区の子育て支援関係者が互いに理解し合い、子育て家庭を見守るための連携を図ります。

- ・ ネットワーク連絡会で役割を担ったことや各種会議への出席を通して、青葉区の子育て支援関係者との関係を築き、連携を図ることができました。
 - ・ 「青葉区の一時保育・一時預かりを考える会」を開催して、一時保育・一時預かりの現状を共有し、課題などを話し合いました。ラフルでの相談では、母子が短時間離れることで現状を乗り切れると思われる子育て家庭に、一時保育や一時預かりを紹介・仲介することが多くあります。今後も一時保育・一時預かりには、子育てを支える大きな役割があることを確認し連携していきます。
 - ・ 養育支援家庭に対しては、行政、区内関係事業所等が集まるカンファレンスに参加し、より良い方向性を参加者全員で検討し、連携・実施をしています。
 - ・ 「子どもの貧困」をテーマに支援者向け研修会を開催し、貧困の実態について認識を深め、子育て支援に関わる者として持つべき視点や取り組みのあり方等を考える機会となりました。
 - ・ ラフル主催の[おさんぽ de スタンプラリー]は、地域施設の協力で4回目の実施となりました。実施にあたって、各施設を訪問して相互理解を深め、連携の意義を共有することは、子育て家庭を見守る関係の構築に繋がっています。
4. **多様な子育て家庭や子育ての考え方を受け入れ、利用者と共につくる広場運営をしていきます。**
- ・ 多文化サロン、障がい児の子育てサロンを開催し、多様な子育て家庭が交流や情報交換できる新たな場づくりを行いました。
 - ・ 日々の振り返りで出された利用者の関心事や抱える問題からおしゃべり会のテーマを見つけ、実施につなげました。
 - ・ 子育て家庭には、さまざまな境遇、考え方、感じ方があることをスタッフ一人一人が理解し、誰もが利用しやすい広場づくりを目指しています。
 - ・ ひろばの利用者と共に準備や手作業を一緒にすることで交流のきっかけとなる場を提供してきました。
5. **サテライト開設に向けて、区と協働で取り組んでいきます。**
- ・ サテライト開設場所の選定は難航し、ぴよぴよの移転を含め法人にかかる負担の大きい事業となりました。今後も運営に工夫を要する施設のため、区と協働で知恵を出し合って取り組んでいきます。
 - ・ 事業所内でのサテライト開設に向けた話し合いは、「青葉区としてどこに何が必要か」「拠点としての役割は何か」を再確認する機会となりました。